

通れば女も通る、老人も通れば子供も通る。毛色眼色がちがふだけで日本も同じだよ。又僕はテベレの河岸のプラタナの新緑の下からウテヴェレの濁水をながめて暮したよ。又ボルゲーゼ公園の青草の上にひつくりかへつて青天井をながめてくらししたよ。ローマの空も京都の空も僕には同じ様に感ずるね。

私は明朝伯林に向います。まつすぐに、丁度小包と同じやうにね。ローマも今日でおしまい。日本の旅行者が一目で見る場所だけでも見ませんでした。去るこなるこローマが名残惜しい。では御機嫌よう。

四月二十九日 ローマにて

同好會神戸支部より

西須磨關守畔 改 發 香 塙

九月中は雨と雲にたたられて、星に親しむ夜は誠に少なかった。晝も同様の理由で黒點實測も不能の日が實に意外に多数である事に驚きました。

星野の寫眞を撮る事に可成苦心をしてるますが、肝心の空模様が兎角めぐまれないのです。たまたま星は見えて居ても、雲があつたり、氣流が悪かつたりして、撮影に適した夜の少ない事を遺憾に思ひ且つ悲觀いたします。神戸に云ふ土地が此様に天文觀測に不適當の土地ではなかつた筈だが……。やつと近頃になつて星野寫眞を撮りました、云ふて、お目にかけ得る程度に仕上げる事が出来る様になりました。近々持参して御批正を仰ぎ度く存してゐます。私以外にも星の寫眞撮影を試みたいと申込むでゐる人があります。具體化すれば、研究上好都合の事と私に樂みにしております。

九月七日(第一土曜) 例會の夜は全くの曇天で一星も見えず、雨さへ何時降り来るかも知れずと云ふ空模様で、會するもの僅に五名。中村氏も、同氏の令兄の御不幸があつて忌中の事でもあり、曇天でもあり旁々御出席がなかつたので大變淋しい會合でありました。

九月中來邸觀望者二十一名、星野寫眞撮影七枚。

十月十二日(第二土曜) 例會。會する者三十二名。中村氏出席。月面の地理に付て、一時間餘に涉つて甚だ詳細なる講話あり。終つて各自天文談に時の移るを識らず。實地觀望としては、美しい土星、立派な月面、星團、星雲、重星と夫れ夫れ觀望、此處にも興は盡きず。いこも楽しく。いこも有益な會合でありました。